

本日、第五十四回愛育班員全国大会に出席し、各地から参加された愛育班員、並びに関係者の皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

これまで長年にわたり、献身的に活動してこられた愛育班の皆さま、愛育班員の活動を導き支えつつ、保健師として人々の暮らしに寄り添ってこられた育成者の皆さまに、深く敬意を表します。そして、本日表示を受けられる皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

恩賜財団母子愛育会は、昭和八年十二月、上皇陛下のご誕生にあたり、母と子が健やかに成長することを願われた昭和天皇の深い思し召しにより、翌年三月に設立されました。当時は、乳児と妊産婦の死亡率が高く、母子の健康を改善するために、調査と研究がおこなわれ、愛育村事業や愛育病院の整備が進められました。それから今日に至るまで、母子愛育会は、社会の状況の変化に対応し、医療、母子保健や福祉の様々な課題に取り組んでいます。

愛育班の皆さまは、それぞれの地域で、子育てをする家族や外出が難しい高齢者に、温かく声をかけたり、言葉に耳を傾けたり、見守ったりされてきました。また、子どもたちが幅広い体験ができ、親子で楽しくふれあう遊びができるよう、あるいは高齢者が人との関わりの機会を増やせるよう、多様な活動をされています。こうして皆さまが、地域の人々のつながりを絶やさないようにするために、大事な役目を果たされていることを心強く思っております。

この度のコロナ禍においても、活動が制限される中、愛育班の皆さまが、困難に直面され、不安を感じ、寂しい思いをされている人々の支えになるべく、力を尽くしてこられました。深く感謝しております。先日、令和三年度におこなわれた愛育班員・育成者ブロック研修会についてのお話を伺いました。研修会では、感染防止対策に工夫を凝らした活動の報告がおこなわれたところ、オンラインの参加者から多くの質問があり、愛育班員同士がお互いに励まされ、勇気づけられたそうです。愛育班員が、こうして体験や知恵を共有することは大変意義深いことと思えます。

感染症の流行が続いておりますが、皆が、より安心して過ごせるようになることを願っております。そして、愛育班活動をされている場所を訪ねて、その地域の人々にお目にかかり、お話し出来ます日が早く訪れることを楽しみにしております。

本大会に参加されている皆さまをはじめ、全国の愛育班活動に携わっていらっしゃる方々と関係者の皆さまが、お健やかに過ごされるようになりますよう、そして、「愛育の心」が今後も長く受け継がれていきますように願います。大会に寄せる言葉といたします。